年 組 番号( 名前

)

達地方広域行政組合は本年度、 村のごみ処理業務などを担う安 小中学生が使い終えて不要にな 一本松と本宮、大玉の2市1

度)となる中、取り組みに注目 が出す1日当たりのごみの量が の資源にしたい考え。県民1人 が集まりそうだ。 全国ワースト2位(2023年 入れて組合側が回収し、再生紙 との多いプリントを専用の袋に す。一般的に焼却処分されるこ ったプリントの資源化に乗り出

安達地方広域行政組合 可燃ごみの分析結果 その他。 (3月10日採取) その他 不燃物類 2 11





ごみ排出量が高止まりしている本県。 安達地方 広域行政組合によると、可燃ごみの半数近く 紙・布類が占めるという =本宮市・もとみやクリーンセンタ 可燃ごみの半数近くを

## 安達広域行政組

を通し、管内の小中学生計 約7千人に雑がみ保管袋を

める方針だ。

方、分別作

を説明し、理解と協力を求 や教職員に対して取り組み センターの職員が児童生徒

合は7月以降、各市村教委

回収の推進に向けて同組

校側から要請があれば、

を占めるという。また社会 は、「紙・布類」が4割以上 る可燃ごみの組成分析で もとみやクリーンセンター み」に分類され、リサイク る小学校のほとんどがプリ 科見学で同センターを訪れ 中に含まれることが多い。 ルが可能だが、可燃ごみの よると、プリントは「雑が |本宮市)で年4回実施す 安達地方広域行政組合に 14かと推計。プリント回収 回収につなげたい考えだ。 の総数を約350万枚、約 高め、家庭や教育現場での を契機に雑がみの認知度を 比べて雑がみの回収は進ん が年間で消費するプリント でいないとみられている。 む段ボールや新聞紙などと ントについて「焼却処分す る」と回答。資源回収が進 同組合は管内の小中学生 いる。 が回収する方向で調整して の日に雑がみを出し、組合 らう。回収方法については 中身を資源として出しても 源化を呼びかけるほか、学 科見学でプリントなどの資 各家庭が地域の「資源ごみ」 を保管し、たまった時点で で雑がみ保管袋にプリント 配る予定。その後は各家庭

もある。

同センターの吉田和幸所

情報が含まれるなどの課題 に加え、プリント類に個人 業がより細分化されること

同組合は出前講座や社会 る」と話し、ごみ削減への 協力を呼びかけている。 して分別することもでき、 安心して資源化に取り組め 長は「雑がみは細かく裁断

不要プリントの資源化に乗り出したのは、どのような実態からですか?

▲ 5月5日 福島民友新聞掲載

る自治体、一部事務組合を

支援する補助事業を創設し

新規事業のほか、本年度

体、団体を財政支援するの

課)としている。 支援したい」(一般廃棄物 に取り組む自治体、団体を 資源化の向上やごみの減量

促進の事業に取り組む自治 県がごみの減量や資源化 や資源化促進事業を展開す などが対象で、1団体最大 らすことで、雑がみを含む

250万円を補助する。

県は本年度、ごみの減量 から事業を拡充する自治体

は初めて。「財政負担を減

県、減量事業に補助創設

本年度

不要プリントは、どのような方法で回収される予定ですか?